

## おとなりさん互助会 創立趣意書

私たちの住むこの国は、人類がはじめて経験する超高齢社会に入っていくとされています。旧厚生省の推計によりますと、2006年には65歳以上の高齢者は人口の20%、2015年には25%を占めることになり、諸外国に先駆けて高齢社会に突入します。また、人口は2007年をピークに減少を続け2095年には現在の約半分、6000万人になるだろうとの見通しであります。

高齢社会といっても、日本経済に旺盛な活力があつて高齢者の労働力を必要とする状況であれば問題はないのですが、現実を見ますと、企業は本社機能だけを日本国内に置いて、製造はコストの安い中国、ベトナム、インドネシア等に移管、食糧生産はオーストラリア、北米、中国に依存するなど、産業の空洞化と食料自給率低下は一層拡大してきています。若者でさえその労働力を期待されなくなっていますので、高齢者の働く場が狭められることはあつても、今後とも拡大される見通しは暗いと言わざるを得ません。

かつて私たちが経験したような高度経済成長の再現は到底望むべくもありませんし、少子高齢化が進んでいけば、社会そのものが活力を失い閉塞感に支配される状況に陥る危険があります。これからの時代をリードし、活力を呼び戻すのは案外高齢者のパワーであるかもしれません。

私たちは、社会・経済状況がどうなろうとも、決して短くない定年・離職後を健康で楽しく暮らしていきたいと思っています。そのためには、自分が誰かの役に立つ存在でありつづけることが大切だと考えています。

私たちは、定年退職と言ってもまだまだ体力・知力共に元気いっぱいですし、長年培ってきた知恵や技術を持っていますので、それを有効に使うことができる場があれば喜んで役に立ちたいと考えています。私たちは、行政や企業が私たちの活動する場を提供できないのであれば、自分たちで自らの出番を創り出していこうと考えました。企業が効率を理由に手を出さない小さな仕事、行政では対応しきれない、きめ細かな仕事、専門家に頼むまでもないちょっとしたお手伝いを探し出していきたいと思ひます。一人一人が、無理をせず、背伸びをせず、身の丈にあった仕事起こしをして、その仕事を通じて、仲間づくり・助け合いの輪を広げていきたいと考えました。

仕事をする人、自らが運営する組織づくりをしていきたいと思ひます。

こうした小さな自主的な活動こそが閉塞感いっぱいの社会に活力を呼び戻す力になるに違いありません。最初は小さい一滴にすぎなくても、やがて大河になるはずです。確信をもって第1歩を踏み出しましょう。

2003年3月29日